

令和元年度学校評価の結果をふまえた今後の改善方策

県立佐用高等学校

今年度の学校評価の結果を検証し、今後の改善方策として、次年度に以下の取組を実施する。

1 組織的な学校運営の推進

(1) 拡大学年団の配置について

昨年度の拡大学年団配置上の工夫により「各部・学年・学科の連携を図り、校務分掌が組織的に機能している。」という評価項目の評価が改善された。そのことを受けて、令和2年度も拡大学年団配置に際して以下の工夫を継続する。

- ① 各学年の授業を担当している教員を優先的にその学年に配置する。
- ② 新入生の学校不適應に対処するため、1学年に保健部長、養護教諭を配置する。
- ③ 3学年に進路指導部長と昨年度の3学年担任及び教務部長を配置する。

※ 教員配置予定

	学年団	拡大学年団	合計
1 学年	9	7	16
2 学年	8	7	15
3 学年	8	7	15

(2) 各種委員会の改変・新設

各種委員会を活性化させ、より組織的で機能的な委員会活動を行うため、「文理委員会」と「学校評価委員会」を統合し、「ビジョン委員会」に改変した。

各部・学年・学科の連携を図り、地域共同事業や活動をさらに推進するために「地域協働事業推進委員会」を新設した。

2 教員の授業力向上について

「魅力ある授業に向けた実践的指導力の向上に努めている。」という評価項目の評価が低かった。そのことを受けて、令和2年度は以下の取組を行う。

- (1) 授業評価アンケートを踏まえた分析と指導法の改善。
- (2) 公開授業や研究授業の活性化。
- (3) 教育研修所等が主催する、授業力向上に向けた各種研修会や発表会への積極的参加とそれを基にした教科内研修会の推進。

3 地域の中学校の要望と生徒指導の視点を反映できる学校評議員の委嘱

平成30年3月で退職された地域の中学校長が佐用町青少年育成センターの経験を有していることから、令和2年度も継続して学校評議員に委嘱し、中学校の要望をより吸い上げるとともに生徒指導の視点からの意見を反映できる学校評議員会の委員構成とした。